

1 情勢報告

普及推進協議会を開催しました（6月25日）。

第1回JA土佐くろしお管内の普及推進協議会を開催しました。今回は、普及指導計画が産業振興プランにどの様に関わりを持って所得向上に取り組んでいるかの紹介と、産業振興計画推進へのお願いとPRを狙いとししました。

意見交換のなかで、農家代表と産業振興計画について共有するにはもう少し時間を要する様子で、引き続き啓発等を行っていく必要性を感じました。また、普及指導計画と産業振興計画の関わりの部分では、地域の環境にあった実証展示を興味深くみているが「キュウリの品質向上・維持をしなければ、産地の信用にかかわるのではないか」「天敵製剤は的確な状況判断の基に導入すべきである」など貴重な意見が出されました。

振興センターとしては、農家、関係機関等から出された意見や提案を今後の普及活動に繋げていきます。

芳生野百石営農生産組合が設立されました。



設立総会

6月28日、えいのう！芳生野代表者会が発起人となり、芳生野百石営農生産組合の設立総会が行われ、農業の担い手の育成・確保や集落で生活できる仕組みを目指して、組合員19名、準組合員10名で設立されました。

7月3日から役員会が開かれ、連絡網の整備や役割分担、記帳などの組織運営の実務について決めるとともに、生産基盤の整備に向けた営農計画の協議が行われました。

振興センターは、関係機関と連携を図りながら、営農計画の策定や栽培活動を支援します。

エコレンジャー点検シートの取り組みを始めました。



仕切られた選果スペース



腐敗防止・異物混入防止に

取り組む選果風景

J A 津野山出荷場「輝」では安全・安心な農産物を出荷するため、場内の衛生管理の向上に取り組んでおり、昨年度から場内の選果スペースをカーテンで仕切り温度管理にも配慮するなど、腐敗防止や異物混入防止に努めています。

本年度、整備された場内では、出荷が本格化する7月中旬からエコレンジャー点検シート（津野山版こうち環境・安全・安心点検シートその2）を利用し、適正な出荷場の運営に力を入れています。

振興センターでは点検シートの作成、運用に当たりJAと連携しながら進めています。今後も常にPDCAサイクルを意識し、取引先等から信頼される出荷場作りを支援していきます。

JA津野山ハナニラ研究会の定例現地検討会・研修会が開催されました（6月23日）



現地検討会の様子

現地ハウスでは、倒伏防止対策のための導入定着ほの設置及び生育状況の確認 露地のサウナ処理とフルオープンハウスでの栽培参考事例について研究会で検討しました。研修会では、高温期の鮮度保持、今後の栽培管理、販売状況等について振興センター・関係機関が説明をしました。

研究会員は、導入定着ほの倒伏防止対策の効果を今後確認していきたいということと露地サウナ処理技術については、雑草等の発生を抑制するので、導入してみたいとの意見がありました。また、高知県園芸連からは、「お客さんが欲しいのに無いじゃ困る。」との指摘を再度受けたので、計画的出荷の重要性が再確認されました。

今後は、県内の実需者（サニーマート、高知青果）と研究会員との情報交換会を実施し、実需者と研究会の意見・要望等を交換して双方が満足できる取組を進めます。次回の定例現地検討会は、8月の予定です。

